

大阪府立茨木工科高等学校定時制の課程  
令和4年度第3回学校運営協議会議事録

日 時 令和5年2月3日(水) 14:00~15:25

場 所 本校特別実習棟2階会議室

出席者 学校運営協議会委員 4名、本校教職員 7名、計11名

1. 学校長挨拶 (井上准校長)

- ・年度当初では39人だった生徒が40になった。
- ・中学生向けの実習体験や広報活動に力を入れている。
- ・昨年度の入学希望者が8人だったのに対して、現時点での入学希望者は11人となっている。

2. 座長挨拶 (川口後援会会長)

- ・時代が流れることによって、様々なことが専門的になってきている。
- ・個人的にデジタル化が進む中、アナログの方がよかったと感じている。
- ・昔より生きにくい中で教育活動を行えるのかが、課題ではないかと感じている。

3. 議題

(1) 令和4年度 学校経営 学校評価(案)について

1) 『今年度(令和4年度)学校教育自己診断の結果』

■ 「学校生活」について

「授業が分かりやすく楽しい」 55.8%→90.6%、34.8%上昇

- ・各先生方の授業見学を2~3回実施、1回目は、全先生方に面談でコメントをし、先生方の授業改善のきっかけになった。
- ・本校独自のオンライン授業委員会が、1人1台端末を自らも利用し研究し、推進し、学校全体の半分ぐらいの授業が、1人1台端末を利用しており、パソコン利用は、生徒たちにとって楽しいものになっているということも上昇の一因になっていると思います。

■ 「学習指導」について

「授業で自分の考えをまとめ発表する機会がある」、55.9%→68.8%、13%上昇

- ・今年度から、新学習指導要領に準じて、新1年生の評価が観点別評価。「思考・判断・表現」「主体的に学びに取り組む態度」の評価のための指導として、「自分の考えをまとめ発表する」を授業に導入する先生方が増えた。

「教え方を工夫している先生が多い」、67.7%→86.7%、19%上昇

- ・生徒が工夫していると思うのは、日々、授業が分かりやすく変化しているということだと思います。先生方が1人1台端末の効率的な利用を日々考えていたり、上記の生徒に考えさせたり、発表させたりが多くなったことも影響している。

「学校は1人1台端末を効果的に活用している」が、新たな質問で、84.4%

- ・新たな質問ですが、1年目にしては、割合は高い方。

## ■ 「その他」について

**【保護者】「学校は保護者や地域の人が授業に参加する機会を設けている。」** 80%→100%、20%上昇

- ・今年度は、コロナ感染拡大防止対策をしながら、全ての行事での参加機会、授業参観も実施でき、昨年度のコロナ禍での参加不可の状態から反動もあり、100%になった。

## 2) 『本年度（令和4年度）の取り組み 自己評価』

### 1 社会の中で主体的に生きる力を育てる

#### ■ (1) 基礎的・基本的な学力の育成

##### ア ICTの効果的な活用と基礎学力の充実

1人1台端末を利用した公開授業は、校内向け10回、校外向け4回実施し、外部の先生も8名来られました。

(生徒向け学校教育自己診断) 「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」  
→肯定率は、昨年度85.3%で十分高かったですが、90.6%とさらに上昇しました。

(生徒向け学校教育自己診断) 「授業が楽しくわかりやすい」については、上述のとおり

##### イ 授業改善による確かな学力の獲得

(教員向け学校教育自己診断) 「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」

→肯定率が、昨年度76.2%から85%へと上昇しました。これも、今年度の1学年は、観点別評価なので、その「思考・判断・表現」の観点に関して、上昇した。

(教員向け学校教育自己診断) 「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」

→肯定率が、昨年度は100%から87.5%と下降。もしかしたら、先生方は「観点別評価」や「1人1台端末の活用」など、新しいことを学習指導に取り入れようと模索しているが、工夫としての形になっていない？先生方は悩んでいる状況かも知れません。現在、オンライン授業委員会の先生方が、全教員に対して、1人1台端末の授業での利用方法の学習会などを実施。今後は、これを活発化するとともに、観点別評価なども発表会の実施など、この結果について、考察を深めていきたい。

#### ■ (2) 資格取得に対する意欲を高め、自己の将来を切り拓く能力の育成

##### ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能取得を図る。

自己評価にあるとおり、今年も、卒業生全員が、何か一つ以上の資格を取得しました。また、3級自動車整備士試験については、4年生の自動車科が3名受験予定です。第5回考査を終了後から講習が始まるそうです。この「3級自動車整備士」ですが、昨年度は、大阪府立の高校で、本校が唯一、合格者を輩出しています。

#### ■ (3) 正規就労の拡大

##### ア 個別の指導・支援による就労指導

就職、進学ともに、100%決定。今年度も就職者全員が、応募前職場見学を実施。

### 2 周囲から尊敬される社会人を育てる

#### (1) 授業規律の確立

##### ア 組織的な指導体制と良好な学習環境、授業規律の確立

(生徒向け学校教育自己診断) 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」

→肯定率は、昨年度 88.2%で十分高かったですが、90.4%とさらに上昇しました。授業中に、生徒が先生に質問しやすいかどうかで、学習環境を図っています。

(生徒向け学校教育自己診断)「授業などで、豊かな心や人の生き方について考える機会がある」→肯定率は、昨年度 47.1%から 78.1%へと、31%も上昇。これは、進路指導部によるマナー講座や、人権 HR などもありましたが、やはり日々の授業のなかでの、先生方の生徒の対応の一つ一つの積み重ねであるかなと思います。先生方に感謝します。

- ・欠席の多い生徒(年間 30 日以上) 8 名以下 →未定 [14 名]
- ・年間退学者 5 名以下→1 名 [1 名]
- ・懲戒指導件数 5 件以下 →2 件 [1 件]・1 年次生の進級率 70%以上 →(未定) [87.5%]
- ・中高連絡会、中学校訪問 30 校以上→中高連絡会 5 校、中学校訪問 27 校 計 32 校 [40 校]

イ 生徒が主体的に授業に参加し、集中して取り組む姿勢を育成

- ・(生徒向け学校教育自己診断)「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」→肯定率が 55.9%から 68.8% への上昇については、上述のとおり

## ■(2)協調性や社会性の育成

ア 学校生活の魅力高め、集団生活への参加を促進

(生徒向け学校教育自己診断)「部活動に積極的に取り組んでいる」→肯定率が、昨年度 35.3%ですが、今年は 59.4%へと 25.1%上昇。これは、3 年生が、バスケットボール部や軽音楽部を掛け持ちしたり、写真部に加入しているからです。結局は、顧問の先生方が、積極的に、生徒たちに働きかけているおかげだと思います。定時制の文化祭である。「秋季大会」の部活動からの参加は、写真部だけでしたが、来年度は軽音楽部の参加してもらいたいと期待しています。

イ 偏見や差別を許さない人権尊重教育を推進

(生徒向け学校教育自己診断)「人権について学ぶ機会がある」が、肯定率 58.8%から 78.1%への上昇。これは人権 HR を、この自己診断の前に実施したことによる結果です。当日に欠席してしまった生徒もいるので、事前学習や事後学習や、人権映画視聴など、年間の人権行事の回数を増やしていくべきだと思います。

(保護者向け学校教育自己診断)「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」→肯定率は、88.9%から 80%へと下降。不登校の生徒の保護者が、比較的、この質問には否定的であった。不登校生徒の保護者に対して、さらに真剣な対応を心掛けたい。

## 3 誇りをもてる学校づくり

(1)地域連携の促進

ア 地域から見える特色ある学校の取組みを推進。

(生徒向け学校教育自己診断)「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」→肯定率 73.3%は、授業については、外部への授業公開 5 回、中学生への授業見学会 1 回、保護者への授業参観 3 日などを実施し、のべ 20 人程度が参観。また、部活動については、バスケットボール部が春日丘(定)と合同練習を数回実施。これらが、この結果に影響。

(2)広報活動の展開

ア 学校の特色を広く伝える活動を展開。

・「学校行事(球技大会・文化祭)等への保護者・地域住民の参加者延べ 50 名以上を維持」について 51 名達成。球技大会、文化祭が保護者への公開を実施したり、保護者面談後の授業参観なども新たに増えた。

・ホームページを創立記念日にリニューアル。

(保護者向け学校教育自己診断) 「ホームページをよく見る」→肯定率が、36.4%から 40%へと上昇。実は、(生徒向け学校教育自己診断)「ホームページをよく見る」→肯定率が、17.7%から 65.9%へと 52.2%へと上昇しています。

リニューアルについて文書にて一斉連絡をしたことも影響していると思います。閲覧数が、毎日確認できるのですが、修学旅行や文化祭の後とかの閲覧数は非常に多いです。閲覧者数も確認でき、ありがたいことに、常時 200 人ぐらいは閲覧いただいています。

### (3) 優れた教育環境の提供

#### ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と指導体制づくり

・(教員向け学校教育自己診断) 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」→肯定率が、90%から 80%になりましたが、十分に高い割合だと思います。

・(教員向け学校教育自己診断) 「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」→肯定率が 82.6%から 81.3%に、減少。他の教員の授業を見学する機会については、実際はオンライン授業委員会が 14 回はあり、初任者の公開授業も 2 回ありましたが、このように 100%にならないので、先生方の時間割の関係で、たまたま授業がある時の、公開授業が多かったのかも知れません。全先生方が、色々な授業見学ができるように、計画的に実施すべきだったと考えます。

・(教員向け学校教育自己診断) 「各種会議が、教職員間の情報交換の場として有効に機能している」→肯定率が 91.3%から、68.8%へと下降。生徒に関する情報交換の会議が少なかったかもしれません。大事なことなので、今後、定期的な実施を、あらかじめ計画すべき。

#### イ 安全安心な学校づくり

・(保護者向け学校教育自己診断) 「学校では、子どもに関する個人情報を守られている」→肯定率 100%ですが、

(生徒向け学校教育自己診断) 「成績などの内容 についてプライバシーが守られている」

→肯定率が 76.5%から 93.7%へと上昇していますが、まだ 100%でないのは、生徒の不安の顕れだと思うので、しっかり、生徒の不安を取り除いてあげたい。

## 4 働き方改革への取組み

### (1) 会議目的を明確化し効率化を図る

#### ア 会議資料のデータ化、ICT 利用による効率的な運営

・(教員向け学校教育自己診断) 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有効に機能している」→肯定率が、86.4%から 62.5%へと下降。

### (2) 定時退庁の促進及び有効な休暇取得の促進

#### ア 働きやすい職場環境づくり

・(教員向け学校教育自己診断) 「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」→肯定率が 78.3%から 56.3%へと下降

#### イ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発

(教員向け学校教育自己診断) 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」→肯定率が90.9%から56.3%へと下降。

・(教員向け学校教育自己診断) 「この職場において、教職員の服務規律への自覚が高い」→肯定率90.9%から68.8%へと下降。

これらは、今年度、内規の変更を慎重審議したことが影響していると考えています。先生方が、生徒の為に、粘り強く、長時間かけて意見交換をし、内規変更が、まとまりました。つまり、スクラップ アンド ビルド により、全員が協力できる内規になりました。そして、この学校教育自己診断の実施したのは、内規変更後すぐで、まだ、ビルドの実践の期間が短いので、このような結果になったと考えます。今後、雨降って地固まるではないですが、より強固に団結した教育活動ができると確信しています。実際に、現在、全ての生活指導的な問題行動について、教育相談委員会とともに指導方法を考えるという、カウンセリングマインドをもったシステムができています。今後、この積み重ねで、下降している教育間のことも、良くなっていくと確信します。

## (2) 令和5年度 学校経営計画(案)について

### 1 めざす学校像 について

今年度は、前回(第2回)の学校運営協議会で提示し、ご意見をいただいた「スクールポリシー」に合わせていかなければなりません。実は、スクールポリシー自体を、今年度の目指す学校像をもとにして作成をしましたので、昨年度から、変更なしとなっております。

### 2 中期的目標 について

#### 1 社会の中で主体的に生きる力を育てる

昨年度まで、基礎的・基本的な学力の育成であった(1)ですが、何とか、新しくなった学習指導要領に基づく育成を目標として明記することを考え、ア)に基礎的・基本的内容の確実な定着を残しながら、イ)の方に、「学習指導要領に基づく三つの資質・能力を育成」を明記し、全体として、(1)確かな学力の育成としました。

あとの、中期的は、目標が変わっているだけで、昨年度と変わっておりません。

### 3 本年度(令和5年度)の取組内容について

#### 1 社会の中で主体的に生きる力を育てる

##### ■(1)確かな学力の育成

#### ア 1人1台端末を活用した、個別最適な学びによる基礎的・基本的内容の確実な定着

これは、1人1台端末を活用すれば、オンライン個別レッスンのように、個別最適な学びができるのではないかという、教育庁が推進していることを、実践し、実際に、基礎的・基本的に内容の確実な定着をしようという計画です。具体的には、評価指標に記載していますが、1人1台端末を利用した個別最適な学びのある公開授業を、校内で10回以上実施する計画です。

そして【評価指標】としては、

- ・(生徒向け学校教育自己診断) 「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」
- ・(授業アンケート) 「先生は、授業中に生徒の学習状況をよく把握しようとしている。」
- ・(生徒向け学校教育自己診断) 「授業が楽しくわかりやすい」
- ・(授業アンケート) 「あなたは、授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」

## イ 主体的・対話的な深い学びのある授業を推進し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力の育成。

これは、新学習指導要領で、主体的・対話的で深い学びのある授業をめざすように、教育庁、文部科学省が推進しているので、それを、1人1台端末を利用して行うという計画です。これは、今年も実施した「1人1台端末を利用した主体的・対話的な深い学びのある公開授業」を、校内で10回以上、校外4回以上実施する計画です。

【評価指標】としては、

(教員向け学校教育自己診断) 「教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。」という指標は、現在の本校の学校教育自己診断の質問で、唯一「学習指導要領」についての質問ですので、指標に取り入れました。

(生徒向け学校教育自己診断) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」これは、3観点のひとつ「思考・判断・表現」の、「表現」を評価する授業なのかどうかの指標を取り入れた。

(教員向け学校教育自己診断) 「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」これは、学習指導要領で推進されている、問題解決型学習のある授業なのかどうかの指標を取り入れました。

(教員向け学校教育自己診断) 「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」これは、学習指導要領で推進されている、対話的な授業なのかどうかの指標を取り入れた。

## 2 周囲から尊敬される社会人を育てる

### ■(1)授業規律の確立

#### ア 組織的な指導体制と良好な学習環境、授業規律の確立

今までの【評価指標】は、(生徒向け学校教育自己診断) 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」だけで、良好な学習環境だけの指標とともれる内容でしたが、追加で【評価指標】を

(授業アンケート) 「あなたは、授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」

(生徒向け学校教育自己診断) 「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」を取り入れながら、授業規律の確立をしていく計画をしています。

### ■(2)協調性や社会性の育成

#### ア 学校生活の魅力を高め、集団生活への参加を促進

【具体的な取組計画・内容】ア・規範意識、社会性育成のための講座、ICT機器の利活用を通して情報活用能力等を養成し、社会人としてのマナーやモラルを主体的に身につけさせる。

【評価指標】として、「懲戒指導件数」5件以下を、退学者や長欠者の箇所から、移動。

### 3 誇りをもてる学校づくり

#### (2) 広報活動の展開

ア 学校の特色を広く伝える活動を展開。

【評価指標】として、

(保護者向け学校教育自己診断) 「学校は保護者や地域の人が授業を参加する機会を設けている。」100%維持とした。もともとは、(保護者向け学校教育自己診断) 「授業参観などの学校行事に参加した」を70%をめざすという指標であったが、広報活動についてなので、機会設けているかの目標に変更しました。

### 4 働き方改革への取組み

#### (2) ア 働きやすい職場環境づくり

【具体的な取組計画・内容】ア・分掌等の業務分散化を図り、ストレス軽減・健康増進に向け、働きやすい職場環境を実現する。という文言によく合致しているので、【評価指標】に、ストレスチェックを導入しました。教育庁が、全府立学校に対して、外部業者に委託して、毎年行っているものです。全国平均との比較があるので、おそらく、全国の高校で行っている、ストレスチェック調査だと思います。

先生方一人一人のストレスチェック結果は、全先生方、個々に、厳封した状態で渡されます。そして、各学校長には、全体的な分析をした資料をいただきます。

例えば、指標のA、B、Cの所を見て頂くと、本校は、今年度、100とした場合の、

A 仕事の量的負担・コントロール度は81%、ということで、平均の8割のストレスしかないということです。

B 職場のサポートは91%、ということで、平均よりわずかに、ストレスが少ない。サポートが多いということです。

C 総合健康リスクは、76% ということで、平均の76%しか、健康的なリスクはないということです。

これを、【評価指標】にしていきたいと思います。

### (3) 令和4年度「学校教育自己診断」結果

- ・今年度の結果については、令和4年度の学校経営の自己評価で説明されたとおりの結果。
- ・令和3年度(1年前)と令和2年度(2年前)との比較は、学校独自で、以下のように、ポイント換算をしている。

→4段階評価(A…よくあてはまる B…ややあてはまる C…あまりあてはまらない

D…まったくあてはまらない)を選んでいる人数を、それぞれ、A合計、B合計、C合計、D合計として、

$$\text{ポイント} = (\text{A合計} \times 2 + \text{B合計} \times 1 + \text{C合計} \times -1 + \text{D合計} \times -2) / (\text{A} \sim \text{D合計総和})$$

として比較しています。今年度は殆どの項目について、ポイントが過去2年間の中で、一番高くなっている。学校教育が今年度になり、全体的に良くなっていると考察できます。

#### (4) 令和4年度 授業アンケート (第1回・第2回) まとめ

第1回よりも第2回の方が、4点満点で1.0高くなった令和3年度(昨年度)が、今までは最高であったが、今年度(令和4年度)が4点満点の0.2高くなり、過去4年間で最高の結果となった。授業アンケートの実施方法も、質問内容が、実習科目と座学科目も同じであったのを、それぞれを分け、また、担任だけでなく副担任も監督する中でのアンケートとなったので、正確性が増していると考えられる。

そう考えると、生徒たちの授業の評価が、確実に上がっていることが考察できる。

#### (5) 学校状況及び生徒活動について

##### 1) 教務部

###### 1. 令和4年度資格取得状況

- ・危険物取扱者(乙4): 1名
- ・ガス溶接技能講習: 7名
- ・アーク溶接技能講習: 2名

###### 2. 3級自動車整備士受験者数

- ・養成課程修了者5名中3名受験

##### 2) 生活指導部

###### 1. 令和4年度 特別指導

No.	学年	発生日	指導理由	指導内容
1	3年	4月28日	喫煙(2回目)	停学5日
2	3年	4月28日	喫煙同席(喫煙前歴あり)	停学4日
3	1年	9月21日	喫煙	停学3日
4	3年	9月21日	喫煙	停学3日

##### 3) 進路指導部

###### 1. 令和4年度の取り組みについて

- ・実施件数: 400%
- ・実施件数: 226%
- ・見学実施者: 257%

###### 2. 内定・進学状況について

- ・正規就職希望者: 100%
- ・年度内内定率 90%以上
- ・進学希望者の合格率 80%以上
- ・現在の内定率 87.5%

###### 3. 令和5年度卒業予定生徒の希望状況について

- ・卒業予定生徒数：10名
- ・学校斡旋希望者：9名
- ・進学希望者：1名

#### 4) 保健指導部

1. 令和4年度の取り組み
  - ・耳鼻咽喉科、眼科検診
  - ・がん教育 講演会
  - ・文化祭での調理模擬店
2. 健康診断について
  - ・定期健康診断結果の解説
3. 保健室の利用について
  - ・来室者、来室理由の解説

#### 質問・意見等

Q. 「学習指導要領に基づく三つの資質・能力」とは、何か？

A. 新学習指導要領の総説の「育成を目指す資質・能力の明確化」に記載してある『三つの柱』です。記載内容を紹介しますと、『今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を生徒に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標や内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理した。』とあります。

この3つの柱を、『学習指導要領に基づく三つの資質・能力』として、これらの育成を、「学校経営計画」の一つとしました。

Q. 非常勤講師をアンケートに含めないのか。

A. 生徒たちにとっては、非常勤講師も先生なので、「授業アンケート」をするときには、その授業の先生ということで、非常勤講師は含んでいるが、「授業アンケート」の結果を返却して、授業改善を、管理職が促す対象にはなっていません。